

氏名	岡 桃子	部署	社会福祉子ども学科	職名	准教授
研究分野	子ども家庭福祉				
学位	修士（人間関係学）				
学歴	2002年3月立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ福祉学科卒業、2006年3月立教大学大学院修士課程コミュニティ福祉学研究科人間関係学専攻臨床心理学コース終了				
経歴	2006年度～立教大学コミュニティ福祉学部実習インストラクター、2008年度～立教大学コミュニティ福祉学部助手、2011年度～八王子市子ども家庭支援センター子ども家庭支援ワーカー及び専門相談員（社会福祉士）、2016年度～立教大学コミュニティ福祉学部助教、2020年度～埼玉県立大学准教授				
所属学会（役職）	埼玉県立大学保健医療福祉科学（SPU）学会、日本コミュニティ心理学会、日本子ども虐待防止学会、日本子ども家庭福祉学会、立教大学コミュニティ福祉学部学内学会				

【2024年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作(著書及びその他の著作物)						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	労働環境の不協和音を生きる－労働と生活のジェンダー分析－	共著	あり	晃洋書房；P.250	堀川祐里、五十嵐舞、鈴木力、新川綾子、清水友理子、跡部千慧、岡桃子、大島 岳、久保優翔	2024.12
2	シードブック新版 子ども家庭福祉 第2版	共著	あり	建帛社；P.224	山田勝美、長香織、所貞之、大澤亜里、岡桃子、堀千鶴子、小西祐馬、小木首宏、谷口純世、高山由美子、新藤こずえ、尾里育士、村田一昭、林知然、大澤朋子	2025.2
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	埼玉県立大学奨励研究A			学校における保健医療福祉連携の在り方に関する研究－学校保健と学校福祉のIPWの可視化－	研究代表者：上原美子 研究分担者：大塚斉、岡桃子	2023.4-2025.3
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者		コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	子ども家庭福祉論	○		15	子どもや家庭が置かれている環境を知るとともに、子ども家庭福祉の基本的な枠組みへの理解を深め、福祉施策や活動の実態と課題について展開した。オンラインも活用しながら、課題・アンケートやリフレクション（感想）を積極的に共有し、相互交流による学びの深まり・参加型を意識した（以下の科目も同様）	

2	社会的養護	○	15	社会的養護の原理、実施体系、ソーシャルワークについて学ぶことにより、「子どもの最善の利益」を追求する社会的養護についての学びを展開した。
3	社会的養護内容	○	15	子どもの権利に重点をおいた社会的養護内容について、各施設での事例を取り上げながら展開した。
4	子ども若者支援論（大学院）		15	子どもの貧困、児童虐待及び社会的養護、少年犯罪、障害児・医療的ケア児、教育と医療、若者の社会的排除の課題など、6名の教員によるオムニバス形式で展開した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		15	実習目的の明確化や実習先施設の理解などを含めた事前指導を教員7名で展開した。
2	ソーシャルワーク演習Ⅱ	○	15	学生を少人数グループに分け、教員4名の専門分野事例を活用しながらソーシャルワーク技法について学びを展開した。
3	ソーシャルワーク演習Ⅳ		15	教員4名ごとのグループに別れ、地域の調査及び支援プログラムづくりの実践をサポートした。
4	社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ	○	15×2	学生の関心や問題意識に応じて、多様な演習形式（関連テーマについてのディスカッション、発表会、動画視聴、現場見学）による学習を行った。ゼミメンバーが互いに発言しやすい居場所作りを重視した。学年間交流も実施した。
5	社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ	○	15×2	卒業研究に向けての学習課題を明らかにし、個別の取り組みを進めていくことに加えて、就職活動や国家試験対策など、最終学年の取り組みをゼミ形式で共有した。合宿も実施した。学年間交流も実施した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ヒューマンケア体験実習		15	学生9名を担当し、巡回を通してスーパーバイズを実施、実習先との調整を行った。事前指導、事後発表会では学生のグループ活動を促進させた。
2	ソーシャルワーク実習Ⅰ		15	学生9名を担当し、帰校日・巡回を通してスーパーバイズを実施、実習先との調整を行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2024.4-2025.3	主指導 5名	副指導 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	国家試験における学習支援	2021.4-現在	国家試験受験者に対する助言と対策講座を実施	
2	駿河台大学(心理学部)および大学院(心理学研究科)非常勤講師	2020.4-現在	「福祉心理学」「福祉心理学特論」を担当	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	実習指導者講習会	埼玉県立大学社会福祉子ども学科	社会福祉士実習を行う実習施設・機関の実習指導者の要件としての講習会の中で、「実習スーパービジョン論」、「実習スーパービジョン論Ⅰ・Ⅱ（演習）」担当	2024.6-7

2	家庭訪問ボランティア養成講座	ホームスタート かわごえ	「家庭とは何か、親とは何か」「子どもの理解」	2024.9
3	養育家庭サロン日だまりサロン勉強会	世田谷区フォスターホームサ ポートセンター ともがき	世田谷区の里親家庭の相互交流会（里親サロン）「日だまり支部」の勉強会 テーマ「里子経験者の声を聴く」 *里親で暮らした当事者青年をサポートする形で共に登壇（NPO法人IFCAのサポーターアダルトとして）	2024.10
4	要保護児童対策調整機関の調整担当者研修、および、子ども家庭総合支援拠点における子ども家庭支援員及び虐待対応専門員研修	埼玉県福祉部こ ども安全課	「子どもの所属機関の役割と連携」「子ども家庭相談の運営と相談援助のあり方」	2025.1
5	児童虐待防止啓発研修会	越谷市子ども家 庭部こども家庭 センター	「子どもと家庭を取り巻く課題とその解決に向けて地域ができること」	2025.1
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	ホームスタートかわごえ	運営委員		2021年度～現在
2	ふじみ野市こども家庭センター	アドバイザー		2024年度～現在
3	越谷市社会福祉審議会	児童福祉専門分科会委員		2024年度～現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	NPO法人湘南遊映坐	理事、事務局長、復興支援事業担当（熊本県南阿蘇村応急仮設住宅、立野学童保育所等）	2013.10-現在
2	地域貢献活動	NPO法人IFCA	SA担当（社会的養護経験者サポーターアダルトボランティア）	2019.2-現在
5. 学内運営				
	項目	内容	期間	
1	全学的委員会及びセンター業務等	学生支援委員会 副委員長		2024.4-現在
2	学生支援	学生担任教員（4年生）		2021.4-現在
3	学生支援	進路担当教員		2024.4-2025.3
4	学科等における委員会等	卒研運営委員会		2024.4-2025.3
5	全学的委員会及びセンター業務等	SPU学会編集委員		2021.4-現在
6	大学広報活動	オープンキャンパス 相談会担当		2024.8
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	国家資格「社会福祉士」「公認心理師」保有			